

Online Papers

ISSN: 2433-9369

Japanese Association of Industrial Counseling TODAY

オンライン論集

日本産業カウンセリング学会

**TODAY**

*VOL. 1 No.2 Oct. 2018*



一般社団法人 日本産業カウンセリング学会

## オンライン論集『日本産業カウンセリング学会 TODAY』について

本誌、オンライン論集『日本産業カウンセリング学会 TODAY』は、勤労者の健康、福祉、能力開発に貢献することを目的として、産業領域のカウンセラー、キャリアコンサルタント、臨床家、研究者などが立場や分野を超えた会員の相互啓発と社会への提言を目指し、2018年に創刊しました。

産業領域でのカウンセリング、キャリアコンサルティングに限らず、働く人たちの現状などについての情報、取組などを振るって原稿をお寄せください。そのほかにも、価値ある情報と思われるが、体裁の整った論文には至っていない、客観的データが十分得られなかったなど、査読付き論文集へ投稿を躊躇している方は、本誌への投稿をご検討ください。原則、自由投稿ですので、多くの方の積極的な投稿を歓迎いたします。

発行は電子刊行物として、産業カウンセリング学会指定の方法でウェブ上に公開します。

投稿いただける内容は、

(1) レポート（取組報告、体験報告、研修会報告、その他）

企業や団体、学校などでのカウンセリング、コンサルティングなどの実践者が行った取組についての報告や会員が参加した研修などの体験に基づく報告など、関係領域の進展や促進をするために発表など。

(2) ディスカッションペーパー

研究の進展と交流を促進するために、研究の過程または成果を公刊に先立って、迅速かつ簡易な方法で発表するもの。同一内容または一部を修正した論文の公刊はこれを妨げない。

発行希望者は、発行論文のタイトル名、本文の入った Word 形式の電子ファイルおよび「投稿論文チェックリスト」を、日本産業カウンセリング学会事務局『日本産業カウンセリング学会 TODAY』編集委員会に提出してください。

2018年10月吉日

日本産業カウンセリング学会 TODAY  
編集委員長 小玉一樹

# もくじ

## レポート

若年無業者支援機関の GATB を用いた実践.....	2
小坂 淑子（認定特定非営利活動法人 育て上げネット）	
田澤 実（法政大学 キャリアデザイン学部）	
新宅 圭峰（認定特定非営利活動法人 育て上げネット）	

## 若年無業者支援機関の GATB を用いた実践

小坂 淑子<sup>1</sup>（認定特定非営利活動法人 育て上げネット）

田澤 実<sup>2</sup>（法政大学 キャリアデザイン学部）

新宅 圭峰<sup>3</sup>（認定特定非営利活動法人 育て上げネット）

### 要旨

本稿の目的は、若年無業者の支援機関である地域若者サポートステーションの利用者に GATB を実施することにより、対象者の自己認知や求職活動の状況にどのような変化が現れるのかを明らかにすることであった。若年無業者 269 名（男性 183 名、女性 86 名）に対して GATB を実施し、自己認知および求職活動の状況について、検査の前後で尋ねた。その結果、支援機関を利用する若年無業者の GATB は、一般の 17 歳から 39 歳のデータと比較しても、全体的に低いことを明らかにした。また、GATB 検査とそのフィードバックを通じて、対象者は自分の得意なところ、苦手なところを含めて自分の特徴について理解が進み、自己評価が肯定的になる可能性が示唆された。しかし、一方で、就職についての相談や、応募活動など具体的な行動レベルではそのような結果は見られなかった。この結果は、職業相談・職業指導のなかで、若年無業者の状態を考慮しながら GATB を活用することが可能であることを示唆している。

キーワード：若年無業者，GATB，地域若者サポートステーション

### 問題と目的

厚生労働省編 一般職業適性検査(General Aptitude Test Battery：以下、GATB)の適用範囲は、原則として 13～45 歳未満の一般求職者であり、検査の目的は、主に学校（中学校・高等学校、専門学校、短期大学、大学等）における生徒、学生に対する進路指導のための活用や、職業安定所、その他の職業相談機関における求職者や来談者に対する職業相談・職業指導のための活用である（厚生労働省職業安定局、2013）。

我が国においては、近年、労働政策研究・研修機構（2016）によって、様々な対象者のデータを比較した検討がなされている。しかし、学校、職業安定所のデータに比較して、その他の職業相談機関のデータの蓄積は十分とはいえない。そこで、本稿では、若年無業者の支援機関である地域若者サポートステーションの利用者に対して実施した GATB の結果を示す。そして、対象者の自己認知および求職活動の状況にどのような変化が現れたのかについて明らかにする。

なお、地域若者サポートステーションとは、働くことについてさまざまな悩みを抱えてい

---

<sup>1</sup> 〒190-0011 東京都立川市高松町 2-9-22 生活館ビル 3F メール：kosaka@sodateage.net

<sup>2</sup> 〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1 法政大学キャリアデザイン学部 BT12F 資料室  
メールアドレス：mtazawa@hosei.ac.jp

<sup>3</sup> 〒190-0011 東京都立川市高松町 2-9-22 生活館ビル 3F メールアドレス：  
shintaku@sodateage.net

る 15 歳～39 歳までの若者が就労に向かえるようにする支援機関である。厚生労働省からの委託を受けた NPO 法人等が実施しており、全国に設置されている。様々な支援を行っているが、主に、一人一人の状態にあわせた相談やプログラム、職場見学・職場体験、保護者向けの支援などを行っている。

法人 A においては、対象者が来所した際に必要と考えられる支援を、心身準備支援（仕事について考える前に心と体を整える支援）、仕事・自己理解（心身の準備が整った者に対する適性や条件などを整理した上で適職を理解する支援）、行動変容（適職を理解した後に、応募行動へ踏み出すための支援）、アルバイト応募支援（アルバイト応募に向かうことができる状態であり、そのプロセスの支援）の 4 つのレベルに分類している。この分類を用いながら、面談を通じてどのプログラムに参加するか、個々の状況にあわせ、本人との話し合いを通じて決定している。

## 方法

### 調査時期

2014 年 10 月から 2015 年 12 月にかけて調査を実施した。

### 対象機関

東京都内に所在する法人 A の事業所である 5 つの地域若者サポートステーションであった。同所においては、働くことに関する不安や悩みを解消するための面談、グループワーク形式で働くために必要となるコミュニケーションのコツを身につけるセミナー、履歴書の書き方や面接での受け答えなど、就職活動に関わる様々なノウハウ等を身につけるセミナー、敬語の使い方や応募先への電話の掛け方、名刺の受け渡し方など働くために必要な仕事のマナーを身につけるセミナー、同じ悩みを持つ仲間とともに仕事のコツをまなぶための仕事体験などを実施している。

### 対象者

調査期間における対象機関（法人 A 全体）の利用者は 2488 名であったが、本稿の対象者は GATB の実施に承諾した若年無業者 269 名（男性 183 名、女性 86 名）であった。年齢は 18 歳から 39 歳であり、平均年齢は 27.4 歳であった。

### 手続き

GATB の実施に際して、下記の項目も同時に尋ねた。

**事前事後アンケート** 検査の前に受検の動機を、検査の直後、フィードバック後に感想を尋ねるアンケートを行った。

**自己認知および求職活動の状況** 事前事後アンケートの一部として、検査前とフィードバック後に下記 5 項目を尋ねた。Q 1 から Q 3 は対象者の自己認知にかかわるもの、Q 4 と Q 5 は対象者の求職活動にかかわるものである。

Q 1：自分自身の現在の状況について（「今の自分は大体良いと思う」から「今の自分は全くだめだと思う」までの 4 件法）

Q 2：自分の長所と短所について（「自分には長所もあると思う」から「自分には短所しかないと思う」までの 4 件法）

Q 3：将来の仕事の可能性について（「自分は何らかの仕事につけると思う」から「自分は仕事につくのは難しいと思う」までの 4 件法）

Q 4：現在、就職についての相談を行っていますか？（「積極的に行っている」から「行

っていない」までの5件法)

Q5:現在、応募活動を行っていますか? (「積極的に行っている」から「行っていない」までの5件法)

なお、これらの項目のみ2015年4月からの実施であった。回答者は120名(男性77名、女性43名)であった。

### 倫理的配慮

対象者には、GATBを受ける際には、個別に結果のフィードバックがあること、検査前、検査直後、結果フィードバック後に事前事後アンケートがあること、および、個人情報取り扱いについて説明し、対象者の調査承諾を得た(なお、アンケートに参加しなくてもGATBを受けることは可能であった)。なお、検査実施のための費用は対象機関が負担した。検査当日は集団で実施し、教示は導入および検査1は口頭で説明し、残りは既成のCDを主に用いた。器具検査を行った場合もあるが少数にとどまった。身体的、心理的負担も考慮し支援者の判断で無理のない参加を促した。

GATBの実施から結果のフィードバックまでの期間はおよそ2か月程度であった。対象者の中には、その期間中に、法人Aの地域若者サポートステーションで実施している面談やセミナーを受けている者が含まれる。

## 結果と考察

以降には、対象者の属性や状態を示した後に、GATBの結果および、アンケートの結果を示すことにする。

### 対象者の属性および状態

まず、対象者の属性の人数および割合をTable 1に示す。女性(32.0%)よりも男性(68.0%)が多かった。学歴で、最も多いのは大学・大学院・短大・高専卒の126名(46.8%)であり、正社員以外での雇用経験がある者が143名(53.2%)、正社員での雇用経験がある者が70名(26.0%)であった。両者を合わせると80%近くの対象者には職歴があった。なお、職歴がなく、求職活動の経験もない者は27名(10.0%)であった。これらの結果は、支援機関を利用する若年無業者を対象にした全国規模の調査(社会経済生産性本部,2007,2008)とほぼ一致していた。

次に、対象者の状態の人数および割合をTable 2に示す。就職希望を表明しながら求職活動は行っていない「非求職型」が140名(52.0%)、就職希望を表明しなおかつ求職活動を始めている「求職型」が88名(32.7%)、就職希望を表明していない「非希望型」が41名(15.2%)であった。

なお、法人Aが分類している、対象者が来所した際に必要と考えられる支援のレベル別の受検人数は、最も多いのは、仕事・自己理解対象者147名(54.6%)であり、次いで、心身準備支援対象者57名(21.2%)、行動変容支援対象者46名(17.1%)であった。これらのタイプと支援レベルのクロス表(人数および割合)を示す(Table 3)。求職型および非求職型は、仕事・自己理解対象者が最も多かった(それぞれ、58.0%、57.1%)。両者は2番目に多い支援タイプが異なっており、求職型は行動変容支援対象者(22.7%)であり、非求職型は心身準備支援対象者(19.3%)であった。非希望型は心身準備支援対象者が最も多かった(46.3%)。全体的に、本稿における対象者には、心身が整ったものの、応募行動へ踏み出す段階ではなく、適性或条件などを整理した上で適職を理解することが支援として行われている者が多いことが分かる。

Table 1 対象者の属性の人数および割合 (N=269)

		人数	割合
性別	男性	183	68.0%
	女性	86	32.0%
学歴	大学・大学院・短大・高専卒	126	46.8%
	大学・大学院・短大・高専中退	33	12.3%
	専門学校卒	36	13.4%
	専門学校中退	3	1.1%
	高校卒	44	16.4%
	高校中退	9	3.3%
	中学卒	9	3.3%
	未記入	9	3.3%
職歴	正社員での雇用経験あり	70	26.0%
	正社員以外での雇用経験あり	143	53.2%
	職歴なし（求職活動の経験あり）	15	5.6%
	職歴なし（求職活動の経験なし）	27	10.0%
	空欄	14	5.2%

Table 2 対象者の状態の人数および割合 (N=269)

		人数	割合
タイプ	求職型	88	32.7%
	非求職型	140	52.0%
	非希望型	41	15.2%
支援レベル	心身準備支援対象者	57	21.2%
	仕事・自己理解対象者	147	54.6%
	行動変容支援対象者	46	17.1%
	アルバイト応募支援対象者	4	1.5%
	未記入	15	5.6%

Table 3 若年無業者のタイプと支援レベルのクロス表 (人数および割合)

	心身準備		仕事・自己理解		行動変容		アルバイト応募		未記入		合計
求職型	11	12.5%	51	58.0%	20	22.7%	4	4.5%	2	2.3%	88
非求職型	27	19.3%	80	57.1%	22	15.7%	0	0%	11	7.9%	140
非希望型	19	46.3%	16	39.0%	4	9.8%	0	0%	2	4.9%	41
合計	57	21.2%	147	54.6%	46	17.1%	4	1.5%	15	5.6%	269

### GATBの各適性能得点

本稿の対象者のGATBの各適性能得点の平均について一般（17歳から39歳）の対象者の得点との比較をFigure 1に示す。なお、一般（17歳から39歳）の対象者のデータについては、厚生労働省職業安定局（2013）に記載されている17-19歳、20-24歳、25-29歳、30-34歳の4つの年齢段階の平均により算出した。一般（17-39歳）と本稿の対象者のGATBの平均値を比較すると全体的に低いという結果が得られた（Figure 1）。GATBの手引の中には、測定される9つの適性能のうち、知的（G）、言語（V）、数理（N）、書記

(Q) は認知機能, 空間 (S), 形態 (P) は知覚機能, 共応 (K), 指先 (F), 手腕 (M) は運動機能に関連することが述べられている。これら 3 つの機能について, 一般(17-39 歳) のデータと本稿の対象者のデータを比較すると特に, 運動機能についての差分が大きいことが明らかになった。これは, 労働政策研究・研修機構(2016 a)が運動共応(K)および動きの遅さと就職困難性の関連を示唆した結果と一致する。ただし, 指先 (F), 手腕 (M) のサンプル数が少ないことには結果の解釈に留意を要する。

労働政策研究・研修機構 (2016b) は, 中高年齢者の場合, 20 歳代, 30 歳代に比べたら多くの適性能の水準が低下傾向を示すため, 9 つの適性能のうち同世代の他の人と比べて受検者自身が持っている高い能力を認識し, それを活かせるような職業は何か, あるいは加齢に伴う能力への影響を軽減するような職務の調整や働き方という視点から適職を検討する必要性を述べている。本稿の対象者である若年無業者も同様の枠組みで支援の方向性を考えることができるであろう。

### 事前事後アンケート

事前アンケートで検査について知った経緯と受検の動機について複数回答で尋ねたところ, 知った経緯については, 「支援者に紹介されて」という回答が 77.3%と最も多かった。受検の動機について最も多かったのは「自分が向いている職業を知りたかったから」(200 名, 74.3%), 次いで「自分の得意・不得意を知りたかったから」(167 名, 62.1%)であり, 「支援者に勧められたから」(142 名, 52.8%)を上回った。また検査直後の時点で実施したアンケートで感想を複数回答で尋ねたところ, 回答が最も多かった項目は「興味深かった」(104 名, 38.7%), 次いで「フィードバックが楽しみ」(89 名, 33.1%), 「疲れた」(87 名, 32.3%)であった。

以上のように, GATB については支援者に勧められて知った人が多かったが, 受検の動機としては, 自分の得意不得意を含めた職業適性に関心を持って受検した若年無業者が多かった。また, 実施後に疲れを感じた受検者も 3 分の 1 弱いたことから, 実施には, 対象者に負荷がかかりすぎないか等体調への配慮が必要と考えられる。

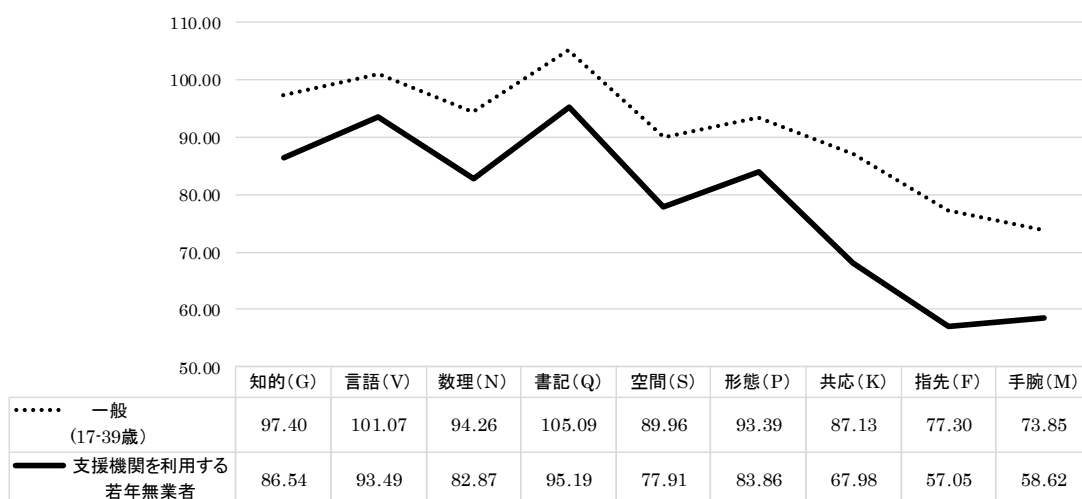


Figure 1 GATB の各適性能得点の平均

### 自己認知および求職活動の状況

自己認知および求職活動の状況の各項目における平均等を Table 4 に示す。事前とフィードバック実施後の得点ごとに相関係数を求めたところ,  $r=.54\sim.73$  (すべて  $p<.001$ ) で



あった。事前と事後の各得点の差を対応のある  $t$  検定によって検討したところ、Q 1, Q 2, Q 3 の得点において有意な差がみられた（それぞれ、 $t(119)=4.11, p<.001, t(119)=2.25, p<.05, t(118)=2.54, p<.05$ ）。このことは、GATB 検査とそのフィードバックを通じて、対象者が、「だめだと思う」寄りの自己評価から「良いと思う」寄りの自己評価へと変化したこと（Q 1）、「短所しかない」寄りの自己評価から「長所もあると思う」寄りの自己評価へと変化したこと（Q 2）、「仕事につくのは難しいと思う」寄りの自己評価から、「何らかの仕事につけると思う」寄りの自己評価へと変化した可能性（Q 3）を示唆している。

なお、就職についての相談（Q 4）や、応募活動（Q 5）など具体的な行動レベルにおいてはそのような結果は見られなかった。これは、本稿の対象者には、就職希望を表明しながら求職活動は行っていない「非求職型」が多いこと、また、心身の準備が整った者に対する適性や条件などを整理した上で適職を理解するための支援である「仕事・自己理解対象者」が多いことが影響したものと思われる。

Table 4 自己認知および求職活動の状況の各項目における平均等（事前とフィードバック後）

	事前	FB後	$t$ 値
Q 1 現在の状況	2.08 (0.75)	2.36 (0.83)	4.11 ***
Q 2 長所と短所	2.86 (0.88)	3.00 (0.75)	2.25 *
Q 3 将来の仕事の可能性	2.91 (0.84)	3.05 (0.82)	2.54 *
Q 4 就職についての相談	3.39 (1.20)	3.33 (1.17)	0.56
Q 5 応募活動	2.31 (1.26)	2.30 (1.17)	0.09

\*  $p<.05$  \*\*\*  $p<.001$

注 1) カッコ内の数値は標準偏差

注 2) 得点が高いことがポジティブな状態であることを示す

## 総合考察

GATB の先行研究では、その他の職業相談機関における求職者や来談者のデータが十分に蓄積されているとはいえなかった。それに対して、本稿では、支援機関を利用する若年無業者の GATB は、一般の 17 歳から 39 歳のデータと比較しても、全体的に低いことを明らかにした。また、GATB 検査とそのフィードバックを通じて、自分の得意なところ、苦手なところを含めて自分の特徴について理解が進み、自己評価が肯定的になることが示唆された。この結果は、支援機関を利用する若年無業者に対しても、GATB は職業相談・職業指導のための活用が可能であることを意味している。この点を示せたことは資料的価値があると思われる。

ただし、就職についての相談や、応募活動など具体的な求職活動の行動レベルに変化が見られたとは解釈できなかった。また、その他の支援の利用状況をコントロールし比較するこ

とはできていない。今後は、GATB 検査とそのフィードバックを通じて自己意識が肯定的になった若年無業者が地域若者サポートステーション内外の支援をどのように活用して求職活動に向かうのかについて明らかにする追跡的調査が必要である。

## 引用文献

- 厚生労働省職業安定局(2013). 厚生労働省編一般職業適性検査手引 改訂第2版 進路指導・職業指導用 厚生労働省職業安定局
- 労働政策研究・研修機構(2016a). 適性検査を活用した相談ケース記録の分析と考察 資料シリーズ No.175.
- 労働政策研究・研修機構(2016b). 職業能力の評価—GATB を用いた 13 年間のデータの検討— 169.
- 社会経済生産性本部 (2007). ニートの状態にある若年者の実態及び支援策に関する調査研究報告書 社会経済生産性本部
- 社会経済生産性本部(2008). 地域若者サポートステーション事例集 200 社会経済生産性本部

---

オンライン論集「日本産業カウンセリング学会 TODAY」編集委員会委員

---

編集委員長 小玉一樹

編集委員 市川佳居, 坂柳恒夫, 下村英雄, 高橋 浩, 廣川 進 (五十音順)

オンライン論集 日本産業カウンセリング学会 TODAY 第1巻 第1号

ISSN 2433-9369

2018年10月9日発行

編集 「日本産業カウンセリング学会 TODAY」編集委員会  
委員長 小玉一樹

発行 一般社団法人 日本産業カウンセリング学会  
会長 小澤康司